

うちのモノ語り

今年、創立80周年を迎えた玉野高。2万数千人の卒業生と母校をつなぐ同窓会事務局に、1基の鐘が飾ってある。高さ30センチほどの端正な姿を緑青のさびが覆う。両手で持ち上げると、ず



っしり重い。「創立時の鐘」は、学校のシンボルの一つとして、青春を謳歌する生徒たちを見守ってきた。

玉野高は1939（昭和14）年4月、旧日比町立日比高等女

350

創立時の鐘

玉野高校(玉野市築港)

同窓生の絆結ぶ存在



同窓生と母校の絆をつなぐ創立時の鐘

メモ 玉野高は1949年に前身2校が統合し、共学の高校となったが、しばらくは日比高女の流れをくむ玉校舎、玉野中の宇野校舎と二つに分かれていた。玉校舎での火災もあり、57年に校舎を統合し、全生徒が一緒に学べるようになった。

の中に鐘が存在していたのだ。

昭和50年代、校舎が建て替えられるとともに、使われることはなくなったが、校内で大切に保管された。

今年9月に同窓会が主催して、市内で80周年の回顧展が開かれた。鐘は会場の入り口で、存在感を放っていた。生徒会長の2年岩部幸雄さん（16）は「この鐘は、学校を大切に思う、たくさんの先輩方の存在を、私たちに教えてくれる」と話す。

時代は違っても、備瀬瀬戸を望む丘に立つ校舎で学んだ者同士の絆を、いつまでも結んでくれる存在だ。

（角南邦彦）
＝ 随時掲載

学校として産声を上げた。日比町と宇野町が合併し、玉野市ができる1年前のことだ。その2年後、もう一つの前身・旧制玉野中学校が開校した。鐘のいわれははつきりしないが、複数の同窓生によると、玉野中学校で使われていたものらしい。

「カラン、カランと音がすると、『あれ、また停電か』宇野港からの潮風が届く木造

学校として産声を上げた。日比町と宇野町が合併し、玉野市ができる1年前のことだ。その2年後、もう一つの前身・旧制玉野中学校が開校した。鐘のいわれははつきりしないが、複数の同窓生によると、玉野中学校で使われていたものらしい。

「カラン、カランと音がすると、『あれ、また停電か』宇野港からの潮風が届く木造

窓生にとっては、学校生活